

群 教 セ	G05 - 03
	令 4. 281集
	音楽 - 小

曲や演奏のよさなどを見いだし、 曲全体を味わって聴くことのできる児童の育成

— 音楽を形づくっている要素を手掛かりに繰り返し聴き
音楽の特徴を確かめる活動の工夫 —

特別研修員 金井 美季

I 研究テーマ設定の理由

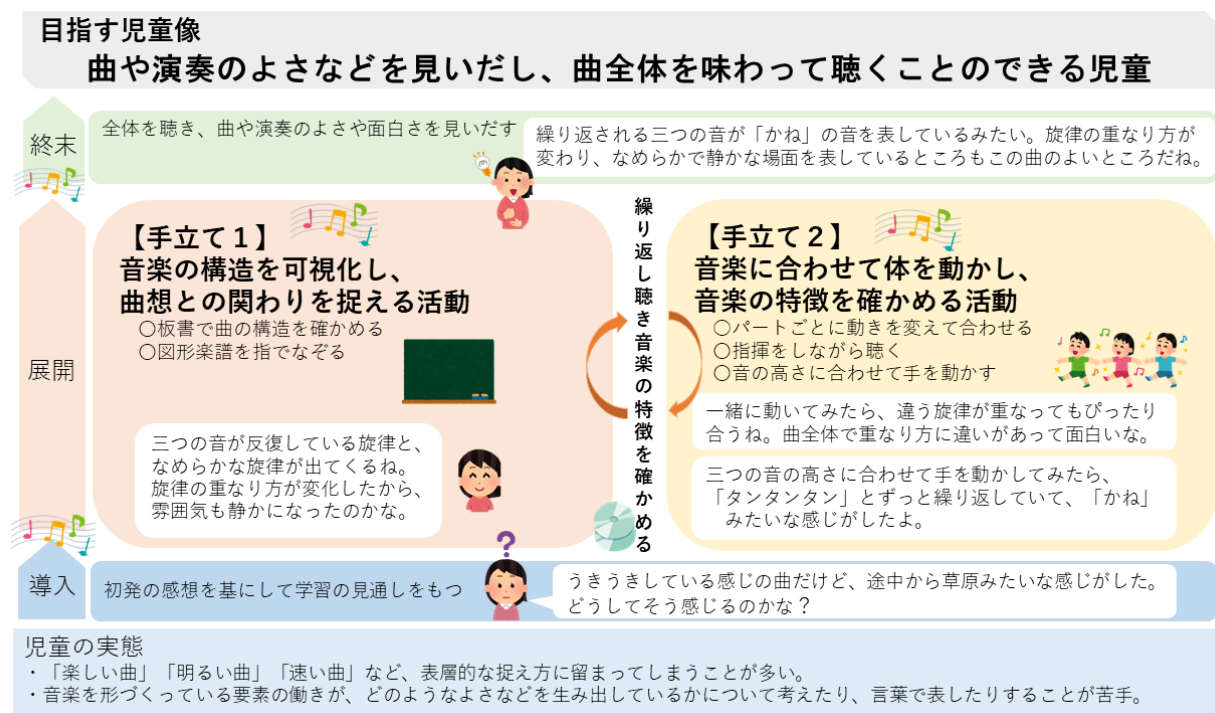
令和4年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、「他者と協働する中で、言葉で表したことと音や音楽との関わりが捉えられるよう、様々な表現で試したり、音楽を聴き返したりする活動を設定しましょう。」とあり、音楽科の学びを深める授業改善のポイントが示されている。

研究協力校の児童の多くは、音楽を聴いた後に曲想を感じ取ることができる。しかし、内容を見ると「楽しい曲」「明るい曲」「速い曲」など、曲を聴いて感じたことが、表層的な捉え方で留まってしまふことが多い。理由は、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているかについて考えたり、それを言葉で表したりする機会が少なかったからであると考えられる。このような児童が、曲や演奏のよさなどについて考えをもち、曲全体を聴き深めることができるようにすることが大切であると考えられる。

そこで、音楽を形づくっている要素を手掛かりに繰り返し聴き、音楽の特徴を確かめる活動の工夫を手立てとすることによって、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴くことのできる児童を育成することができると考え、本題材を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことのできる児童の育成のために、次の二つの手立てを設定した。

手立て1 音楽の構造を可視化し、曲想との関わりを捉える活動

- ・音楽に合わせて図形楽譜を指でなぞったり、板書で曲の構造を確かめたりする。
- ・ワークシートを活用し、音楽の構造を可視化し音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを捉えることができるようにする。

手立て2 音楽に合わせて体を動かし、音楽の特徴を確かめる活動

音楽に合わせて以下のように動かしながら音楽の特徴を確かめていく。

- ・音の高さに合わせて手を動かす。
- ・パートごとに動きを変えて合わせる。
- ・速さに合わせて体を揺らす。
- ・リズムに合わせて指揮をしながら聴く。

曲や演奏のよさなどを見だすとは、音楽的な理由を伴って、曲がもつよさや、演奏形態や演奏者などによる演奏のよさなどについて考えをもつことである。そして、その考えをもちながら、曲全体を聴き深めることが、曲全体を味わって聴く児童の姿と捉える。

このような学習を実現するためには、曲想の変化を感じ取って聴いたり、音楽全体がどのように形づくられているのかを捉えて聴いたりすることが必要となる。児童が感じ取った曲想及びその変化を基にしながら、曲想を生み出している音楽の構造に目を向けることができるよう、手立て1・2の活動を取り入れながら音楽を形づくっている要素を手掛かりに繰り返し聴くことで本研究のテーマに迫っていく。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 時間とともに消えてしまう音楽を可視化したことで、音楽を聴いて感じ取ったことの原因を探る手掛かりをつかんだ児童の姿が見られた。聴覚だけでなく、視覚でも確認できるため、音楽を形づくっている要素の現れ方や音楽の仕組みに着目させることができた。
- 音の高さを手で表現したり、指揮や体を動かしながら音楽を聴いたりしたことで、音楽を形づくっている要素の働きが生み出す曲想の変化に児童自ら気付くことができた。終末の場面でも、体を動かしたり指揮をしたりしながら聴く児童の姿も見られた。
- 視点をもって繰り返し音楽を聴くことにより、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているかについて考えやすくなり、曲全体を聴き深めることにつながった。

2 課題

- 知覚する活動が多かったので、音楽を聴いてイメージしたことや感情と結び付けさせながら学習を深めていく必要がある。
- 児童同士が関わり合う場を十分に設定し、協働して鑑賞する楽しさを味わえるようにしていく必要がある。

実践例

- 1 題材名 「音の重なりをかんじて合わせよう」（第3学年・2学期）
 教材名 「歌おう声高く」（花岡 恵 作詞／長谷部 匡俊 作曲）
 「『アルルの女』第1組曲から かね」（ビゼー作曲）

2 本題材について

歌唱「歌おう声高く」では、主な旋律と“ランランラン”の音型を繰り返すことで簡単な初めての二部合唱の体験をすることができるため、互いのパートの声を聴きながら声を合わせて歌う技能を育てていくようにする。鑑賞「かね」は、反復の音型からなる旋律となめらかな旋律が重なり合う面白さを味わうことのできる曲である。二つの教材性を生かして、旋律の重なり注目しながら表現と鑑賞を関連付けて学習を進める。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	(1) 旋律の重なりや特徴、フレーズなどと曲想との関わりに気付くとともに、思いや意図に合った歌唱表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付ける。（知識及び技能） (2) 旋律の重なりや特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫し、どのように表現するかについて思いや意図をもったり、旋律の反復やその重なりが生み出す曲や演奏のよさなどを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。（思考力、判断力、表現力等） (3) 曲の特徴を捉えて表現や鑑賞する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習に取り組み、旋律の反復や重なりに親しむ。 (学びに向かう力、人間性等)	
評価規準	(1) 知識・技能 ① 曲想やその変化と、旋律の重なりや反復との関わりについて気付いている。 ② 思いや意図に合った表現をするために必要な、互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けて歌っている。 (2) 思考・判断・表現 ① 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 ② 旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見いだし、曲全体を味わって聴いている。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 ① 曲の特徴を捉えて表現や鑑賞をする活動に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 「歌おう声高く」を聴き、発見カードに自由に感想を書く。 反復する旋律を手拍子したり、ハンドベルで鳴らしたりする。 主な旋律を手拍子して、旋律の特徴を捉える。
追求する	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 反復する旋律を歌う。 主な旋律を歌う。 主な旋律と反復する旋律を合わせて歌う。
まとめる	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 「かね」を聴き、発見カードに自由に感想を書く。 三つの音が反復されていることを確かめる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ア イ アの三つの部分からできていることを確かめ、それぞれどんな場面か考え発表する。 ・捉えた特徴を共有し、曲全体を聴く。 ・題材の振り返りをする。
--	--

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全3時間計画の第3時に当たる。前時まで学習した、反復と音の重なりを手掛かりに、聴き取ったことと感じ取ったことの関わりについて考えながら学習を進める。

手立て1 音楽の構造を可視化し、曲想との関わりを捉える活動

音楽に合わせて教科書の図形楽譜をなぞったり、板書により可視化された旋律の重なりについて確認したりしながら曲の構造を確かめる。

ワークシートを活用し、音楽の構造を可視化することにより、**ア** **イ** **ア**の三部構成からできていることや、音楽を形づくっている要素と曲想との関わりを捉えることができるようにする。

手立て2 音楽に合わせて体を動かし、音楽の特徴を確かめる活動

アの部分では、音楽に合わせて体を揺らす、指揮をする、手の動きで高さを表現するなど、体を動かす活動を行うことにより、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているのかを確かめる。

4 授業の実際

〔導入〕

前時に学習した「歌おう声高く」を、三つの反復する音と違う旋律を合わせながら演奏して、反復と音の重なりがあり、音の違う二つの旋律を合わせて演奏すると楽しい感じがすることを振り返った。その後、反復する三つの音に合わせてハンドベルをならしながら歌い本時の学習につなげた。

〔展開〕

手立て1 音楽の構造を可視化し、曲想との関わりを捉える活動

曲を聴きながら教科書の図形楽譜をなぞり、**ア** **イ** の旋律の特徴を確かめる活動（図1）

- ・指で図形楽譜をなぞりながら繰り返し聴き、旋律の動きや音の重なりの特徴に気付く。
- S: **ア**の部分】ラファツと三つのかねの音が反復している旋律と、主な旋律の二つが重なっている。
- S: **イ**の部分】反復するかねの音はなく、なめらかな旋律である。
- S: うきうきした感じがしたのは、旋律の動きが上がったり下がったりしているからかな。



図1 図形楽譜を指でなぞる

児童とやり取りをしながら旋律の特徴を板書し、構造を可視化した場面（図2）

- T: **ア**の部分は、どのような特徴がありましたか？
- S1: かねの音が鳴っていました。
- T: なぜそのように感じたのですか？
- S2: 三つの音が繰り返したくさん鳴っていました。
- S3: 「歌おう声高く」のように反復した感じがしました。
- S4: 他にもなめらかな旋律がありました。
- T: かねの音となめらかな旋律を一緒に演奏することを何と言いますか？
- S5: 音の重なり
- S2: 音の重なり方が変わると曲の雰囲気も変わるな。



図2 板書による構造の可視化

手立て2 音楽に合わせて体を動かし、音楽の特徴を確かめる活動

体で音楽を感じ取りながら、旋律や反復、音の重なりの特徴を捉える活動

【ア】の部分

(反復する音)

ラファソの反復する音を、手を上、膝、手拍子と音の高さに合わせて手を動かしながら聴く。

S: 三つの音の高さに合わせて手を動かしてみたら、「タンタ
ンタン」と、ずっと繰り返していて、「かね」の音みたいな
感じがしたよ(図3)。

(主な旋律)

三拍を大きな一拍として捉え、指揮をしながら聴く。

(反復する音と主な旋律)

パートごとに分かれてそれぞれの動きをしながら聴く。

S: 一緒に動いてみたら違う旋律が重なってもぴったり合うね。
曲全体で重なり方に違いがあって面白いな。

【イ】の部分

S: 反復する音はなく、なめらかな旋律だけである。

S: なめらかな旋律に変わったところから曲の雰囲気が急に静かになったよ(図4)。

【終末】

全体を通して聴き、曲のよさなどをワークシートに書く

<児童のワークシート記述より>

【ア】の部分

- ・元気の激しい曲。色々な楽器の音がした。かねが鳴っているような音で、反復する音があった。
- ・音の重なりや反復する音があり、うきうきした感じ。

【イ】の部分

- ・明るかったのにどんどん暗くなっていった。なめらかで悲しい感じの楽器で演奏していた。トランペットなどで演奏していた。

【全体を通して】

- ・【ア】の部分は、ホルンで吹いていて曲名のかねのように聴こえた。【イ】の部分は、かねの音はなく、ゆっくりなめらかな感じがする。
- ・違う音と音と一緒に演奏しても、ぴったりと合う。音の重なりがあると、よりよく感じる。



図3 旋律の特徴に合わせて体を動かす



図4 3拍子の指揮をしながら聴く

5 考察

図形楽譜をなぞったり、板書により可視化された旋律の重なりについて確認したりしながら曲の構造を確かめたことにより、課題追求の手掛かりとなる要素である「反復」と「音の重なり」を視覚的にも分かりやすく捉えることができた。また、反復する音を、手を上、膝、手拍子と動かしながら聴くことで、音の高さや、三拍子の曲であることを確認し、「旋律」の特徴や変化する部分を感じ取ることができた。本時のまとめや振り返りでは、使われている要素や楽器などの特徴に触れ、違う音同士を合わせてもぴったりと合うなど音楽的な理由を伴って曲の面白さをワークシートに書くことができた。さらに、曲全体を通して聴いた時には、自然と体を動かしたり指揮をしたりしながら聴く児童の姿も見られた。視点をもって繰り返し音楽を聴くことにより、音楽を形づくっている要素の働きがどのようなよさや面白さ、美しさを生み出しているかについて考えやすくなり、曲全体を聴き深めることにつながった。

以上のことから、音楽を形づくっている要素を手掛かりに繰り返し聴き、音楽の特徴を確かめる活動を手立てとしたことが、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴くことができる児童の育成に有効であったと考える。